

日本学術会議 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会

iLEAPS 小委員会

第 26 期第 2 回 議事要旨

日 時： 令和 6 年 9 月 27 日（金）10:45～12:00

場 所： 名古屋大学東山キャンパス、研究共同館 II-409、およびオンライン会場

出席者： 平野高司（現地）、伊勢武史（現地）、植山雅仁（オンライン）、加藤知道（オンライン）、
近藤雅征（現地）、佐藤永（現地）、須藤健悟（オンライン）、高梨聡（現地）、仁科一哉
（現地）、野田響（現地）、檜山哲哉（現地）、村岡裕由（オンライン）、持田陸宏（現地）

欠席者： 熊谷朝臣、市井和仁、小谷亜由美、片柳薫子

配付資料：議事次第に記載あり

議事進行

（1）第 1 回議事要旨の確認について

異議無し。承認された。

（2）iLEAPS2024 研究集会について

後ほど檜山委員より情報をいただき、佐藤委員長が皆様に回覧し承認を得ることとする。

（3）国際科学委員会における最近の議論について

特になし

（4）2027 年春 iLEAPS 国際科学集会について

ここからは、近藤幹事が議事進行を引き継ぎ、以下の議論を行った。

●日程：

2027 年 3 月 1 日（月）～5 日（金）で決定。この 2 日前からプレイベント（iLEAPS SSC ミーティング、若手研究者向けイベント、Ice Break）を実施予定。会場の確保の都合上、この日程以外に選択肢はない状況。

●実行委員：

近藤（実行委員長）、佐藤（副委員長）、檜山、持田、仁科、野田

資金集めは近藤が主担当。

広報は佐藤が担当。告知ポスターや各種情報の周知を行う。広報開始については、iLEAPS 運営会議で確認すること。

●委託先：

近畿日本ツーリストに見積もりを依頼中。予算次第だが、可能な限り業務委託で諸事を進めて、実行委員会の負担を減らしたい。

●プログラム：

見積もりを取るために暫定的なプログラムを作成した。Breakout session については、現在 3 つの同時開催を予定。部屋の調整次第では 5 つまで増やすことが可能。

Plenary session では、約 40 名の演者が必要。今年発表された iLEAPS の Roadmap paper には、今後 iLEAPS が注力すべき研究領域がリストアップされており、これに基づいて Plenary session を組むのが良いのではないかと考える。

●国内外ネットワークとの連携：

日中韓フォーサイトプロジェクトの代表である高橋善幸氏に実行委員として加わっていただくのはいかがでしょうか。また、IGAC（代表：金谷有剛氏）にも声をかけると良いのではないかと。

●Young Scientists 会議：

Young Scientists 会議を行うことが募集要項で推奨されている。これは日本側で対応したい。過去に参加経験のある仁科委員によると、シニア研究者がメンターとして参加していたとのこと。当小委員会の委員に協力を依頼してはどうか。

●予算：

機微な内容のため、詳細は議事録に記載しないが、非競争的資金として、共催機関から 300 万円、広島市コンベンションビューローから 300 万円の支援が見込まれる。また、行政からの競争的資金の取得も目指すが、同時に取得できない予算もあるため、慎重に進める必要がある。さらに、民間からの協賛金も集めたい。

●参加費用：

Social Dinner の参加費を別にするかどうか検討中。日本国内の研究者にとっては公費使用の規定が厳格なため、別途会計処理の方が望ましいが、海外参加者には歓迎されない可能性もある。

(5) 今後の活動について（国内研究集会・事務体制・web 管理など）

●本小委員会の Web サイトをホスティングしている国立環境研究所の情報管理方針の厳格化に対する今後の対応について

仁科委員より、経緯の説明があった。厳格化の方針（HTML ページの廃止と CMS による情報管理の必須化）はあるものの、直ちに対応が求められているわけではなく、将来的に運用方針が緩和される可能性もあるため、さしあたり、本小委員会としては静観することとする。もし CMS での管理が義務化される場合、現行の Web サイトの「お知らせ」「委員会名簿」「承認プロジェクト」程度の内容を新方針に従って移行し、それ以外のコンテンツ（過去の活動履歴など）は別のサーバーにホスティングし、公式サイトからリンクを張ることで対応する。

●メーリングリストの管理厳格化について

高梨委員より、経緯の説明があった。iLEAPS の ML を提供している農水省のサーバーが、今後サービス提供が困難になる可能性が高いとのこと。

（佐藤委員長）現状、iLEAPS-ML は小委員会委員間の情報交換と議論の場としてのみ機能しているので、必要な場合は個別メールで対応できるのではないかと。委員長が情報を展開する際には、各委員に BCC でメールを送信し、返信に対しては委員長が必要と判断した委員のみを CC に移すとい

う段取りで良いだろう。

（仁科委員）国環研でも ML を提供することは可能。加入者数が少なく、更新頻度も低い場合という条件があるが、当委員会の ML であれば、この条件を満たす。

（佐藤委員長）本件も急ぎの話ではなさそうなので、農水省サーバーの運用状況を注視し、必要であれば国環研に ML をホスティングしてもらう方針で進めたい。

（6）その他

特になし

以 上